

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスや日々のミーティングに於いて常に運営理念の共有を再確認している。また職員の異動時は特に、理念の確認を全職員共通徹底して取り組んでいる	法人理念「共に歩む」を基本にグループホームの目標を毎年定めている。職員による発案を管理者がまとめ作成している。法人の理念やコンセプトを職員は良く理解しケアに役立っている。	年度のホーム目標を家族や外部の方々に向け発信する機会を設けられたら良いのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事活動への参加は十分な機会を設けることが出来なかった	ホームで行われる「敬老会」・「クリスマス会」などの行事に地域のボランティアの参加をお願いしている。また同一敷地内の「特養さわらび」主催の納涼会に地域住民と共に参加している。学生よりホームでの1週間体験学習の希望があり受け入れたこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内において法人主催の講演会、認知症関連教室の開催を実施することで地域へ還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分な意見交換を行い、その内容をサービスの向上に活かせるよう検討している	入居者・家族・区長・介護相談専門員・岡谷市職員・広域連合職員・施設管理者のメンバーで会議が定期的に開催されている。少しずつグループホームへの理解が得られてきている。会議の後、委員にも防災訓練に参加して頂いたことがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人事務局が窓口となり、市町村担当者との連携を取り情報を提供しながら、課題解決への取り組みを行っている	市より「介護相談専門員」が月に二回派遣されており、入居者より日常の話や要望などを聞きホームとの橋渡しをしていただいている。インフルエンザの件や認定調査の件では電話にて連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体に対する拘束はしていない	法人の身体拘束の研修が計画され、職員は参加し学んでいる。拘束による弊害を認識している。現在、対象となる事例はない。施錠については開設以来の推移の中での反省点を踏まえ、家族の了解のもと安全のために行う場合もある。午後になると帰宅願望の強い方もいるがこまめに対応している。	抑圧感のない自由な暮らしを支援するため、必要な場所・時間帯等を減らしていくように、見守りなどの徹底を話し合いで検討していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に尊厳、尊重を十分に理解し、身体的虐待、精神的虐待は勿論、特に言葉遣いには細心の注意を払っている。不適切な言葉遣いは、即注意し合う職場の人間関係をつづけている。		

グループホームさわらび・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に情報を収集し、ミーティングなどを通して話し合う機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時には十分な時間をかけ丁寧な説明を行っている。また質問しやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員の訪問等、意見・不満・苦情の言える環境づくりを行っている。法人全体でのアンケートを年1回行っており、その検証を基に職員の意見交換を実施し改善している。またホーム内にご意見箱の設置とその旨の説明をし気軽に投函できる場を設けている。	意見箱の設置や介護相談専門員の受け入れなどにより入居者・家族の声は反映されている。入居者や家族の希望により、1階のベランダに「サンデッキ」が作られ10月に完成した。今後お披露目を経て、サンデッキが有効に使われ、入居者の楽しみ場となるものと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス等を通じ意見交換を行い、改善に反映させている。	ケアプランに関する情報については担当制となっているので、定例会・カンファレンスなどで発言する機会が多い。職員同士の話し合いも活発でリーダーへの相談もしやすい雰囲気になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	欠勤者等が出た場合には職員間の話し合いで勤務の調整を図り、必要な職員の確保を実施している。職員からの提案を取り入れるなど職員自身が積極的に取り組む姿勢や努力を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、可能な限り職員全員が参加できる機会を確保している。またミーティングなどを利用し継続的な活かし方を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や講習会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報を十分に収集するとともに、十分に時間をかけ本人を受け止め信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をかけ受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いまその人にとって一番に必要な支援は何かを見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線に立ち、共に過ごし学ぶという姿勢を大切にしている。調理の方法を教えてもらったり一緒に考えるなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有しあうことで、共に利用者を支えていくパートナーとしての関係を築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、家族等の面会や、外出への制限は無いため、以前の馴染みの関係の方々や度々訪問してくださっている。また施設からも積極的に案内を行っている。	入居者よりのお友達との連絡を取りたいという希望を聞き、電話を取り次いだり、また電話で話したりと入居前からの関係を絶たないように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話をしているとき等は、その時間を大切にしよう見守りを行っている。また利用者同士が関わり合いを持てるよう状態を観察しながら積極的に声掛けをしている。		

グループホームさわらび・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関わりを希望する利用者や家族には施設での催しや行事を案内すると共に、随時相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や行動を真摯に受け止め、一人ひとりの希望や意向をしっかりと把握できるよう、ミーティングやカンファレンスを中心に検討している。	入居者と職員とのやり取りでその日によって意思の疎通がはかれない状態になることもあるが、職員は「相手を受け入れる」ことを前提に考え行動している。辛抱強く相手のことを考え理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との普段の会話や関係の中から把握するよう努めている。またそれらの情報をミーティング等を通じ職員全員が共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング等での話し合いを通じ現状の把握と情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に訪れた機会などに現在の状況を伝えるとともに、家族の意見や意向を聞き相談しながらケアに反映させている。本人や家族、主治医などと話し合い介護計画を見直している。	入居時に「利用者情報」を家族より頂き、入居者の希望や家族の希望を伺いながら作成している。ケアプランについては担当制になっており、各々の職員が入居者の方々の毎日の生活状況を把握して定例会等で発言・提案をする。計画作成担当者がプランを総まとめし完成している。定期的に見直し、評価も全職員参加で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録のほか業務日誌や申し送りノートなどを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊、移送のサービスを通じ柔軟なサービスを行っている。		

グループホームさわらび・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2回市の介護相談専門員の訪問や民生委員の方の訪問等を通じ情報交換や協力を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に協力医療機関がかかりつけ医となることを説明し同意を得ている。また、毎週1回、医師の往診がある。	家族の同意を得た場合はホームの協力医に変更していただいている。1週間に1回、協力医の往診がある。隣接の特養の看護師と連携しており、24時間体制で連絡が出来るようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問看護師、敷地内の特養の看護師と連携を取り支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	グループ法人内の医療関係者も含めて入院時の医療機関とは情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族等の希望を聞きながら、かかりつけ医や法人内関係者等と相談を重ね方針を決めるよう努めている。	ホーム独自の「指針書」が作られている。職員は法人主催の研修会に参加し勉強している。ホームが提供できる重度化や終末期の対応について入居時に家族等に説明している。現在ホーム初めてとなる看取り対象の方が居るので2ユニットの全職員が情報を共有し、特養の看護師や医師との連携を図りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人グループ全体としても情報を共有し対策を講じている。また研修を定期的に行うことにより対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練に入居者様も参加していただき行っている。	消防署の参加による訓練が年二回行われている。ホーム独自で「ミニ訓練」を行い、いろいろな想定で入居者・職員が一緒になり毎月行っている。各居室に火災報知器が設置されている。救急の訓練も行われAEDの取り扱いも勉強している。	

グループホームさわらび・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行うよう努めている。	ホームで入居者の方々を呼ぶ時に「〇〇様」と呼んでいる。年上の方々に対して尊敬の意味を含めお呼びするようになったという経緯がある。言葉遣いや態度に違和感があった場合は職員間でも注意し合い、更に朝礼などで改めて注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のかかわりの中で利用者が何を希望しているか把握するように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、それにとらわれ過ぎることなく思い思いのペースで過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し支援している。理容・美容は訪問理容を活用し、ご本人の要望に沿えるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付け等は出来るだけ利用者と共にしている。職員も一緒に食事を取ることで、味付けの好みや好きな食べ物の話などしながら楽しい時間となるよう心掛けている。	献立はユニット毎に作成されている。入居者の方々が自分のエプロンを掛けいきいきと台所仕事に参加していた。調理に直接関われない方も出来ることで参加していた。すべて職員と入居者の方の手作りで、目からの食欲も喚起され、味付けも美味しく出来ていた。入居者と職員全員が同じテーブルで和気藹々食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、水分量等注意している。お茶以外の時間にも水分が取れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別にうがいや義歯洗浄を促し航空内の清潔に努めている。また数人の方は入れ歯洗浄剤を毎日使用している。		

グループホームさわらび・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、早めの声掛けやトイレ誘導を心掛け、オムツを使用しないよう努めている。	布パンツを使うことで入居者に自信を持ってもらえるように職員は一人ひとりの行動や様子を見ながら声を掛け昼夜に関わらずトイレへ誘導している。リハビリパンツから布パンツになった入居者も多々いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために食べ物、飲み物など工夫している。腸に良い食品や適度な運動を取り入れ予防対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間は決まっているが職員や利用者同士話をしながら一人ひとりのペースに合わせて入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	1週間に二回の入浴が予定されている。清潔に保たれた浴室の天井には遠赤外線ヒーターがあり、脱衣所には床暖房もあり、快適な入浴環境が整えられている。入居者の希望があれば入浴予定日以外の利用も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に応じ休息を促すなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法用量については理解している。飲み忘れ、薬が足りているか注意を払っている。また日常の記録を医師に伝え服薬調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の今までの生活習慣などを検討しながら拭き掃除や食事の盛り付け、洗濯たたみ等していただいている。また自宅にいた頃の趣味が続けられるよう環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や状態を考慮の上、出来るだけ散歩など外出の機会を作っている。車椅子なども利用し多くの方が戸外で気持ちよく過ごせるよう配慮している。	立地条件により公道までの道が急な坂になっているので徒歩による近所の散歩は難しい。ホームから広い敷地内の特養までの散歩が頻繁に行われている。定期的な行事外出が計画されており、ドライブや外食など、地域の中での生活の楽しみも加えられている。	

グループホームさわらび・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金の所持はしていないが行事等の時必要であれば持っていていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて手紙や電話、時候の挨拶などのやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には生け花や観葉植物を置き廊下の壁には古典的なのれんを掛けるなど落ち着いて過ごせるよう配慮している。	広い空間に生け花・鉢植えが飾られ、入居者の塗り絵などが飾られている。床暖房による暖かさとベランダより差し込む太陽の暖かさが心地よかった。床にはフローリングが施され、白い壁には和で統一したタペストリーが飾られ落ち着いた雰囲気である。新聞を読む方、柿の皮むきをする方、ソファでテレビを見ながら談笑する方など思い思いの場で時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファを置き一人になったり気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し出来る限り居室には以前から使用していた家具や使い慣れた調度品を置いている。	収納用のクローゼットと洗面台が設置されている。個々の持ち込みの差はあるが、ご自分の好きな写真や手作りの作品が飾られていた。入居者の状態に合わせた寝具の導入がホーム側よりされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招かないよう環境に配慮し繰り返し説明して不安を取り除くよう一人ひとりの状態に合わせて工夫している。		